

# まちづくり 活動部門



## ■大日通周辺地区まちづくりを考える会（神戸市中央区）



- 地元商店街と婦人会で構成されており、HAT神戸の新住民と、震災以前からの住民とのふれあいの手伝いや、地域住民への生活密着情報の発信を通じて、まちづくりに役立つ活動を行っている。
- HAT神戸の中にある特養ホームへの「出張市場ふれあい」を2年半で70回以上実施している。
- 商店街の空き地を「大日にざわい広場」として、階段状のステージや花壇などに整備し、維持・管理も手がけるとともに、広場を使ったイベントも開催している。

## ■大手前通り街づくり協議会（姫路市）



- 大手前通り沿道の企業や住民が一致結束し、世界文化遺産にふさわしい通りの実現に向けて、平成9年に発足した。「ビューティ・アクティビティ・ホスピタリティ」をテーマに3つの分科会を設け、積極的な活動を展開している。
- 平成9年から毎週第2木曜日に、大手前通りにおける清掃活動を実施するとともに、平成10年11月から、フラワーボットを設置し、花の植え替えを年3回実施している。
- タペストリー（統一フラッグ）の製作・掲揚、ミニコミ誌の発行等も実施している。

## ■甲子園一番町自治会まちづくり検討会（西宮市）



- 昭和62年に「一番町住環境保全宣言」を策定し、一番町で行われる開発に対して協力を求めてきたが、良好な住環境を保つことが難しくなったため、地元で地区計画案を策定し、平成12年8月、正式に都市計画決定された。
- 地区計画案の策定にあたっては、まちづくりアンケートや先進地視察、まちの点検隊、地区計画素案の検討、ブロック別懇談会を実施。
- 公園整備においても、住民が設計に意見を述べ、完成した公園は、住民が自主管理を行っている。

## ■かじょう会（龍野市）



- 平成3年に発足した、ボランティアで地域活動を展開している地元住民のグループである。
- 平成14年4月、商店街にある築約100年になる空き家の町屋を改装し、その建物の1階部分は、ギャラリーや農作物等の即売などに利用できる「ふれあいギャラリー」として再生させた。
- 住民に作品の展示場所を提供するなど、衰退化した中心市街地の活性化に貢献している。

## ■中村町むらづくり協議会（中町）



- 平成12年度に県の「コミュニケーション型県土づくりモデル事業」の指定を受け、住民参加による「あかね坂公園」の整備を行い、その後の維持管理も住民が行っている。
- 集落を花でいっぱいにするためのマスタープランである「中村町花回廊基本計画」を平成14年3月に策定。また、地区全体を美術館に見立てた「花回廊おおぞら美術館」も平成13年6月に開催した。
- 平成11年度からは「トライやるウィーク」で中学生を受け入れ、集落のまちづくり活動を経験してもらっている。

## ■日高町花と緑の協会（日高町）



- 昭和52年度の設立以来、町の花の基地の管理や花づくり講習会などの行事を積極的に開催し、地域の環境美化に大きく貢献してきた。特に、例年4月29日の緑の日に開催している「ひだかフラワーフェスティバル」は、春の恒例行事として町民の中に定着している。
- 平成14年度には、町内の花愛好家に自慢の庭を公開してもらい、花を通じた交流をめざして、第1回「ひだかオープンガーデンショー」を開催し、各地で楽しい出会いとふれあいの場が多数生まれた。

## いざりがみ ■岩座神棚田の里づくり委員会（加美町）



- 岩座神地区は、日本の棚田百選にも選ばれた山間の集落で、平成9年度には、「棚田オーナー制度」を県内で最初にスタートした。
- 平成11年、農村景観としては初の事例として、県の条例に基づく「景観形成地区」の指定を受けたことを契機に、まちづくりを考える会として、当委員会を発足した。
- 平成14年1月1日、地区内において、建物建てたり、改造する場合に農村景観に配慮した構造、色、形とすることを申し合わせた。住民協定「岩座神棚田の里づくり協定」を締結した。

## ■なんたんまちなみたんてい団（八鹿町）



- 昭和63年に若手建築士が中心になり結成されたもので、年に4、5回のまちなみウォッチングを主に活動してきた。また、地域に向向いて、写真展や子供達を集めての子供路探検「わんぱくキッズ」等も実施。
- 平成10年度には生野町口銀谷地区、和田山町竹田地区が、平成13年度には大屋町大杉地区が、県の「景観形成地区」に指定されることに寄与するなど、まちなみの保存活動に貢献。
- 「うだつ」のある建物を但馬地域でくまなく調査して「うだつマップ」を作成した。